

2017年度（平成29年度）
事業報告書

社会福祉法人 豊友会

2017年度(平成29年度)事業報告

概 要

2017年度(平成29年度)は、法人設立19年目を迎えた。

法人理念を大切にしながら、各地域の実情を把握し、保育方針・保育目標を確立し、教育・保育の充実を図ってきた。

職員数も、210名を超え、専門職集団として、専門性を高めるためのキャリアパスを策定し、質の向上を図っているところである。

全体的な傾向としては、保育士・保育教諭の確保は概ね順調である一方で、首都圏においては、栄養士等給食関係職員の確保に苦労しているところである。国の施策にも影響を受け、職員の処遇改善の急速に進めており、見込みで改善・向上を図り、職員確保に寄与している部分もある。

豊岡地区においては、2018年4月に開園したスマイリーハウス保育園の開園準備のため、チャイルドハウス保育園、テラスハウス保育園において、配置基準を上回る職員を確保し、開園に備えた。首都圏エリアにおいても、各園で2018年度に予定されている保育定員増加への備えや東京都進出への準備として、職員を配置基準より多く配置し、対応してきた。

神戸エリアにおいては、各施設とも順調に経営し、2018年3月に松風児童館分館を開設して、運営拠点が分園を含め、5か所となり、職員数も60名程度となっている。

研修に関しては、各地域の特性を活かした効果的な研修体制の構築が不可欠であり、首都圏エリアを中心にディズニーランド研修などを取り入れ、他分野の取り組みを参考に、職員の視野を広めるための研修にも取り組むと共に、ピアノ研修など実践的な研修を行い、職員確保、定着にも役立っているものと思われる。また、コンプライアンス研修も積極的に行い、法令順守の大切さを改めて周知している。ただし、法人としての積年の課題である、管理職・中堅職研修については、十分な成果があるとはいえず、今後の課題となっている。

法人運営に関しては、本部機能と施設機能の分担、機能強化を図っているところであるが、いまだ十分といえず、ガバナンスの観点からも今後の改善、整備が必要不可欠となっている。

2017年度は、社会福祉法人改革が整備された初年度であり、理事会・評議員会等の機能の周知、運営についても、注意を払いつつ、適正な運営を心がけたが、法人監査等を通じて、指導された内容を踏まえ、改善、充実を図ることとしたい。

2018年には、職員の働き方改革、処遇改善をすすめ、やりがいのある、働きやすい職場環境整備に努めていくこととしたい。また、諏訪ひかり保育園で第三者評価の受審を予定するなど、外部評価を進めると共に、地域に密着した活動展開を行い、各地域で必要不可欠な存在となるべく邁進したい。

1 業務報告

本法人においては、各地域の特性を活かした社会福祉事業、公益事業及び収益事業を行うと共に、園児や保護者のニーズに対応した事業展開を基本として取り組んでいる。

2018年（平成30年）3月末日現在で、社会福祉事業として、チャイルドハウス保育園、テラスハウス保育園、村雨こども園、村雨こども園愛分園、村雨ほほえみ保育園、諏訪ひかり保育園、松風児童館と、公益事業としては、放課後児童クラブキッズガーデン、さいたま保育園(埼玉病院院内保育所)、こじか保育園(下志津病院院内保育所を経営し、平成30年4月より社会福祉事業として、松風児童館分館、スマイリーハウス保育園を開園し、公益事業として、つくしんぼ保育所(国府台病院院内保育所)の経営を引き継ぎ、13施設の経営を行うこととなり、なお一層の環境充実を図ることとしたい。

1-1 社会福祉事業

保育園事業に関しては、各園とも概ね順調に推移している。

チャイルドハウス保育園においては、定員130名に対して、162名の園児となり、恒常的に定員20%（156名）以上の超過状態となっている。テラスハウス保育園に関しては、定員48名に対して、概ね定員同数の園児数となっている。豊岡市街地において、待機児童が増えており、法人としても対応が求められている。病児・病後児保育については、年間520名超の利用があり、目標である400名以上の目標に到達した。子育て支援事業においては、0歳児～2歳児の親子登園を行う活動と、3歳児の体験保育事業を行い、年間平均で43組の利用があった。きめ細やかな取り組みができ、保護者からの育児相談が増えるなど、地域の在宅親子との関係を深めることができた。

村雨こども園に関しては、幼保連携型認定こども園へ移行初年度であり、愛分園（定員12名）を加え、147名へ定員を増やし、園児数は平均141名となっている。

松風児童館に関しては、年間延べ22,000名を超える利用者があった。子育て支援に関しては、32組の登録があり、定期的に通園している。学童児童数は最大で113名となっている。保育園と児童館の合築施設の良さを活かしつつ、近隣地域若しくは西須磨小学校等の近隣の小学校との連携を深めている。平成30年4月に分館を開館する。

諏訪ひかり保育園に関しては、園児数は平均97名で、定員80名を99名に変更し対応している。病児・病後児保育室に関しては、177名の利用で前年を上回っており、それが定着しつつある状況である。

1-2 公益事業

放課後児童クラブキッズガーデンに関しては、平成24年4月より運営をはじ

め6年目を迎えているが、児童数は毎日通園が42名、一時保育登録者が27名、個性育成コース9名の合計78名となっており、保育・教育内容に関しては、一層の充実を図ることが不可欠な課題となっている。

独立行政法人国立病院機構埼玉病院より、院内保育所「さいたま保育園」の保育業務の運営委託を受け、引継に際して、様々な課題を有したが、一つひとつ克服しながら、現在では順調に経営を行っている。

1-3 収益事業

豊岡市内所有地を私立学校や教育関連事務所に賃貸し、収益事業を平成27年度より開始し、継続して収益事業としている。この所有地については、再活用について、指摘を受けており、30年度、豊岡市において、小規模保育事業公募を計画されていることから、公募への応募を検討すると共に、多機能型施設として「子育て支援センター」「地域コミュニティセンター」「婚活推進サロン」の開設し、特徴ある社会福祉事業、公益事業を展開することを検討することとしている。公募への応募・採択状況にもよるが、本年度中に方針、具体案を策定し、来年度の開設を目指すこととしたい。

1-4 第三者評価

チャイルドハウス保育園では、平成22年度から23年度にかけて、第三者評価を受審し、『手続き集』、マニュアル等を整備し a 評価であった。このデータをベースに各園で取り組みをしているところである。認証機関の選定を行い、年次計画を立てて実施することとしたい。苦情解決システム、外部監査と合わせ、円滑でなお一層充実した運営を図るための取り組みと位置付けている。平成30年度に、諏訪ひかり保育園での受審を予定し、準備を進めている。

1-5 研修活動

各人のニーズを把握し、ピアノ研修など実践的な研修に加え、専門性の向上、人間関係性の向上等について、各地域で研修活動に合致した研修に取り組んでいる。

法人としては、全職員を対象に、弁護士によるコンプライアンス研修を継続し、元看護部長を講師に招いて、管理職研修等を行っている。その他ガバナンス、子ども子育て新システム制度に関する研修を行った。

今後の課題として、キャリアパスに関するそれぞれの課題の抽出を行い、研修に活かすことや、平成29年度の社会福祉法人制度改革の研修に積極的に取り組んでいきたい。

各保育園、施設での研修に関しては、それぞれの取り組み、展開を行っており、各職員の資質向上、目的に合致した研修内容となるように取り組んでいる。

従来からも各種の研究大会、セミナーに積極的に参加しているが、フィードバックが重要であり、園内研修などへの取り組みを行っている。法人としては、コンプライアンス、ガバナンス、会計をはじめとする諸規定改善に関する研修

会、勉強会に積極的に参加している。

また、業務効率化に向けて、全職員の IT 技能の修得、ホームページなどの更新技術の向上を行うと共に、コミュニケーション能力の向上に向けた取り組みを行っている。

平成 29 年度に初めてディズニーランド研修を行い、幅広い視野でのユニークな研修となり、職員の資質向上に努めることとしたい。

1-6 法人運営

法人運営について、理事会を 10 回、評議員会 2 回、コンプライアンス委員会を 1 回開催し、さまざまな課題について協議を重ねた。

法人職員も合計は、210 名程度となり、コンプライアンス、ガバナンスの観点からも法人本部としての機能の強化を図っているが、施設との役割分担、効率化など十分な対応と言えず、検討を重ねている現状にある。

2 経営報告と今後の課題

法人全体としての事業活動収入は 8 億 7,824 万円、事業活動支出は 8 億 7,121 万円、事業活動収支は 702 万円となり、事業活動外収支を加味した経常収支は、494 万円の黒字となっている。

昨年度対比に関しては、収入ベースで 1 億 3,166 万円の増加、事業活動収支ベースで 5,420 万円の減少、経常収支ベースで 5,408 万円の減少となっている。

経常収支の減少の主な要因は、施設整備と人件費増加によるものである。それぞれの施設において空調、園児用トイレの整備等を行うと共に、保育用具等の購入を行い、教育・保育環境の充実に努めた。また、平成 30 年度事業に向けた取り組みとして、スマイリーハウス保育園、松風児童館分館の整備を行うと共につくしんぼ保育所の開園準備を行った。人件費の増加の要因は、処遇改善に伴う給与改善を行うと共に平成 30 年度より新規事業の職員確保の為、配置基準より多くの職員の雇入れを行うことによるものである。また、賞与引当金を計上する等、前年度と比較して人件費支出が 1 億 5,000 万円程度増額したことによる。

なお、平成 30 年度予算では、事業活動収入 10 億 2,835 万円、事業活動収支 6,153 万円、経常収支 2,232 万円の計画である。

3 社会福祉事業（各施設状況）

3-1 チャイルドハウス保育園

（1）保育・運営

平成 29 年度は 3,4 歳児が 2 クラス制となり、認定こども園への移行（平成 32 年度を目途）を視野に入れ、事務室を 2 階へ移転し、旧事務室を保育室に変更、

同時に園児用トイレの増設を行った。

テラスハウス保育園、放課後児童クラブキッズガーデンとの連携も重要性を増しており園児交流は勿論のこと、職員交流を積極的に推進した。

保育内容については、教育面の充実を図りつつ、年間行事計画等の見直しを図り、0、1、2歳児の生活発表会について抜本的に変更を行った。

地域との連携・交流に関しては、毎月1回実施している避難訓練を豊岡北中学校と連携して行い、「トライやる・ウィーク」や中高生の育児体験・ボランティア活動等も積極的に受け入れた。

広報活動に関してもホームページのリニューアルを図り、保護者との日々の連携を大切にしながら、地域に対しても情報発信をこまめに行った。

平成 29 年度 チャイルドハウス保育園園児人数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月	4	17	20	45	45	27	158
5月	4	17	20	43	45	27	158
6月	4	17	20	45	45	27	158
7月	4	17	20	46	45	28	160
8月	5	17	20	46	45	28	161
9月	5	18	20	47	45	28	163
10月	6	18	20	48	46	27	165
11月	7	18	20	47	46	27	165
12月	7	18	20	47	46	27	165
1月	7	18	20	46	46	27	164
2月	7	18	20	46	46	27	164
3月	7	19	21	47	46	27	167
平均(人)	5.3	17.6	20	46	45.5	27.2	162.2

(2) 子育て支援事業

子育て支援事業については、0～2歳児の親子活動事業と3歳児の体験保育事業を行った。親子それぞれの交流の場となるよう各年齢に応じた活動内容を提供すると同時に、気軽に育児相談できるような雰囲気づくりを心がけた。また、毎土曜日の園庭解放を随時行った。

地域コミュニティについては、5回の開催となった。

平成 29 年度 子育て支援センター チャイルドハウス登録数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計(人)
5月	3	15	12	17	47
6月	3	13	12	17	45
7月	4	11	12	16	43
8月	6	11	12	17	46
9月	6	13	12	17	48
10月	6	14	12	17	49
11月	6	13	12	17	48
12月	8	13	12	17	50
1月	8	13	12	17	50
2月	8	13	11	17	49
3月	8	13	11	17	49
平均	5.5	11.8	11.8	16.9	43.6

平成 29 年度 地域コミュニティ実績報告

日時	内容	場所	参加状況
7月20日	親子でプール ～大型プールに入ろう～	チャイルドハウス 保育園	9組
10月30日	人形劇をみよう ～親子でふれあい遊びや 人形劇をみよう～ 「動く・こどもの館号」	チャイルドハウス 保育園	11組
11月17日	体験してみよう！ ～親子で楽しく運動遊び～ 講師 榎本 紗代氏 講師 上野 真希氏	チャイルドハウス 保育園	10組
12月15日	メリークリスマス！ ～親子で楽しくケーキを作ろう～ 講師 中田有希氏	豊岡エネルギー	7組
3月15日	くまバスでおでかけ！	久美浜 中央運動公園	9組

(3) 病児病後児センター「チャイルドケアセンター」

今年度の利用者数は522名であった。自園の利用者が比較的に多いが、医療機関への啓発もあり、他園在籍児、小学生の利用が増加してきた。保育看護のより一層の充実を図るため、医療機関との一層の連携を見直したい。

平成 29 年度 チャイルドケアセンター利用人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
人数	32	30	54	35	43	50
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	39	37	47	44	66	45
合計	522					

(4) 一時預かり事業

本事業の実施が広く周知され、年間利用者がのべ 1,173 人であった。ニーズが高く、受け入れ制限することもあった。在園児との連携を踏まえ、個々の発育状況などを把握し、今後も安全、安心して預けられるよう、地域貢献の一つとして行っていきたい。

平成 29 年度 チャイルドハウス保育園一時保育実績

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月	6	4	1	29	3	1	44
5月	5	0	2	69	3	0	79
6月	4	2	4	74	0	1	85
7月	5	6	4	65	4	0	84
8月	4	0	5	72	1	2	84
9月	8	2	8	70	0	1	89
10月	6	6	6	74	2	4	98
11月	8	6	10	90	1	1	116
12月	7	3	12	73	5	0	100
1月	5	17	30	60	1	1	114
2月	7	29	39	66	1	0	142
3月	18	32	28	53	3	4	138
平均(人)	6.9	8.9	12.4	66.3	2	1.3	97.8

(5) 職員研修

本園の研修として、ピアノ研修など実技研修を定期的に行い、質の向上を目指した。中堅職員については、本年度より導入されたキャリアアップ研修を積極的に受講し、職員自身のスキルアップに繋がっている。

また職員の健康増進を目的として、ストットピラティス研修を行った。

3-2 テラスハウス保育園

(1) 保育・運営

平成29年度、ひと月当たりの平均在園園児数は49名であった。

毎年、年度末に保護者アンケートを行い、保護者・保育現場の声を拾いながら、年間行事等の見直しを行った。①保護者会総会後の春の親子遠足を、保護者会総会後の保育参観・参加に変え、親子遠足の時期を秋に変更。②乳児の生活発表会を0,1歳児は「親講座・保育参加、給食試食会」に変更。2歳児は、チャイルドハウス保育園3歳児クラスへの進級を踏まえて、チャイルドハウス保育園2歳児と合同で生活発表会を実施し、子どもたちの成長を身近に感じて頂くことができた。また、昨年の課題であった、行事のみならず、日々の保育の保育士間、チャイルドハウス保育園との連携の強化は、年数を重ねるごとに充実してきている。

保育の質の向上を目指し園内研修に力を注いだ。特にリトミック研修の保育実践、保護者対応のロールプレイング、衛生管理研修に注力した。外部研修も積極的に取り組み、保育のスキルアップをより深めることができた。

地域の子育て支援の取り組みとして、一時保育は487名の利用があった。今後、育児相談、園庭開放等を充実させ、地域に密着した園運営を行っていきたい。

平成29年度 テラスハウス保育園園児人数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計
4月	7	21	18	1	47
5月	9	20	18	1	48
6月	9	22	18	1	50
7月	9	22	18	1	50
8月	9	20	18	1	48
9月	10	20	18	1	49
10月	12	20	18	1	51
11月	12	20	18	1	51
12月	12	20	17	1	50
1月	12	20	16	1	49
2月	16	20	16	1	48
3月	11	20	16	1	48
平均(人)	10.6	20.4	17.4	1	49

平成 29 年度 テラスハウス保育園一時保育実績

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合 計
4 月	1 1	3	0	1 4
5 月	0	8	0	8
6 月	1 1	1 3	2	2 6
7 月	4	3 7	0	4 1
8 月	4	2 4	5	3 3
9 月	1 4	1 9	9	4 2
10 月	1 5	2 9	2	4 6
11 月	1 9	2 1	1	4 1
12 月	2 8	1 3	6	4 7
1 月	3 5	6	1 2	5 3
2 月	4 3	9	1 8	7 0
3 月	5 1	9	6	6 6
平均 (人)	2 3 5	1 9 1	6 1	5 8 7

3-3 村雨こども園・村雨こども園愛分園（幼保連携型認定こども園）

(1) 施設運営

平成 29 年 4 月 1 日より、1 号認定 15 名を増やし、定員 147 名の幼保連携型認定こども園「村雨こども園」と幼保連携型認定こども園「村雨こども園愛分園」に保育園より移行した。2.3 号認定の待機児童数が多い村雨保育園からの移行であるため、また、運営上においても移行初年度ということもあり、1 号認定の募集を広く広報せず、本園の一時保育利用者と 2 号認定から 1 号認定に変更希望者のみに情報提供し、1 号認定に受け入れた。待機児童である 2 号認定子どもに配慮し、初年度の 1 号認定子どもは、8 名でスタートした。

同年に小規模保育園「村雨ほほえみ保育園」を開設し、「村雨こども園」が連携施設となり、保育・食育（給食）の指導や助言、職員間の連携の役割を担った。今後もお互いの園の運営の質の向上のため、人事交流を促し研修や検討会議を行っていききたい。

また、キャリアパスの作成を行ってきたが、職員自らが目的や目標をもって研修を受け、職務の質が向上できるようなキャリアパスになっていないので、現場が活用しやすいように改善していく必要がある。職員の意見を聞き取りしながら改善していききたい。

ここ近年、特に継続して保育教諭の人材確保対策にどう取り組んでいくかが、大きな課題になってきている。当年度の退職者は、婚姻と同時に遠方に転居と

なる職員が多数であった。また、在籍する職員の中にも婚姻が多く、産前産後・育児休暇取得による代替職員の確保も必要な現状がある。採用後の職員の人材育成や働きやすい職場環境を維持していくことも含め、法人としての職員採用における対策を考え、取り組んでいく必要がある。

当年度も 8 名の保育所実習生を受け入れた。本園の実習希望者は年々多くなっているが、人材確保には繋がりにくいので、さらには、保育実習生の今後に繋げていけるようなきめ細かな指導を行い、本園の教育保育観が合致する学生を発掘していきたい。

神戸市西部建設事務所より、平成 27 年度からここ 3 年に渡り本園前の「道路（側溝）上の乗り入れ等の除去・撤去」を、来園や文書にて指摘されている。顧問弁護士や設計士に対応して頂いているが、対応が中途半端で解決していない。専門的な内容であるため園での対応に限界があり困っている。法人での対応策、改善策を検討していきたい。

平成 29 年度 村雨こども園（定員 135 名）・村雨こども園愛分園（定員 12 名）

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計 (人)
4 月	12(3)	18(6)	30	27	30	25	142(9)
5 月	12(3)	18(6)	30	27	30	25	142(9)
6 月	12(4)	18(6)	30	27	29	25	141(10)
7 月	12(6)	18(6)	30	27	29	25	141(12)
8 月	12(6)	17(6)	30	27	30	25	140(12)
9 月	12(6)	18(6)	30	27	30	25	141(12)
10 月	12(6)	18(6)	30	27	30	25	141(12)
11 月	12(6)	18(6)	29	27	30	25	141(12)
12 月	12(6)	18(6)	29	27	30	25	141(12)
1 月	12(6)	18(6)	29	27	30	25	141(12)
2 月	12(6)	18(6)	29	27	30	25	141(12)
3 月	12(6)	18(6)	29	27	30	25	141(12)
平均	12(5.3)	17.9(6)	29.5	27	29.8	25	141(11.3)

愛分園園児数（外数）

(2) 教育保育内容について

全職員対象に、「幼保連携型認定こども園教育保育要領」に記載されている、「就学前までに育てたい 10 の力」を中心に、グループ単位でディスカッションし、各クラスの教育面を明確に年間指導計画の作成を行った。計画に基づいた教育保育内容のなご一層の充実に向けた取り組みについては、園内外の職員研修等を積極的に受け、教育保育内容に少しずつ付加価値をつけ、子どもの発達を考慮しながら実践的な取り組みに順次繋げてきた。

小学校の英語教育導入と、グローバル社会に生きる子ども達のために、今年度から E C C 英会話教室と契約を始めた。4, 5 歳児クラスに外国人講師による「歌やチャンツ、ゲームで英語のリズムや発音を聞いて動いたり、言ったりす

ることを楽しむ」内容を目標に、英語遊びを取り入れた。

また、3, 4, 5 歳児クラスにおいて、英語の読み書きを追加で取り入れたいご家庭には、毎週水曜日の午後 1 時から園内の保育室を E C C 英語教室に賃貸し、英語講師が教室を開講して保護者のニーズに応じている。

発達的に気になる子どもが増えている。保護者との連携の中で、こども家庭センターの発達検査を受け、職員の加配が必要になる「すこやか対象児」の認定が下がっている。4 月当初は、すこやか児童は、3 名だったが年度末には 5 名となった。同時に、まだグレーゾーンの範囲の園児や保護者の理解が進まないケースも抱えている。発達のアンバランスから、視覚に入るものすべてに反応する。言葉での理解が難しく、絵カードを導入するなど工夫はしているが集団での活動が難しい。また、医療的行為が必要な酸素吸入やてんかんを抱えている園児もいる。月に 1 回、対象児の個別検討会議を継続して実施し、職員間で情報を共有、把握し、緊急時の対応や日々の個々の関わりを大切にしている。

(3) 子育て支援事業

地域の在宅親子に対する子育て支援は、毎週月曜日に、村雨こども園の園庭開放「むらさめひろば」と松風児童館の館内開放「なかよしひろば」を充分に活用してもらい、親子でのふれあいの場、親同士のおしゃべりの場、ある時は、育児相談の場として多くの子育て親子の来場がある。

また、7, 8 月の園庭でのプール開放、こども園行事「七夕会・クリスマス会・ひなまつり会等」に地域の親子を招き、一緒に行事等を楽しんだ。

ここ近年、たわいもない事でも、話を聞いてもらえる人がいない環境におかれている親が増えている。ネットで検索したり、書き込んだりすることで解決していこうとしているが、直に会話をして言葉を交わしながら、自分なりに思い考えることが難しい親が本当に多くなった。この様な親は、我が子に対しても意思疎通が難しく、親子で葛藤をしている状況に陥っている。常に目が離せなく寄り添う支援に、多くの時間が必要になっている。

今年度は、特にモンスターペアレントや精神疾患により子どもを避けたい親、子どもの行動、態度に過敏に反応し気持ちの起伏が激しい親等々、自己中心的で理不尽な内容の保護者対応にとっても駆使した。保護者の理不尽な言葉に、胸をえぐられ、心だけでなく体にも症状が出る職員もあった。対策として、そのような保護者に接する際、必ず 2 人以上の体制で話を聞く、言われたことを必ず情報共有し、職員全体で受け止めることで乗り切ってきた。職員のメンタルヘルスの研修だけでは、自らの心身をコントロールすることができない程、相談内容が過激になってきていることを痛感している。必ず関係機関（区役所相談窓口や区担当保健師、小学校校長・教頭、民生児童委員等）に報告し、情報を共有する中で、それぞれの役割を決め相談業務にあたるようにし、職員の心身のカバーにも努めている。しかしながら、相談業務においては、保護者対応の専門性と連携体制の確立がより一層必要となる。関係機関との連携をより強

化し、継続的に支援していける体制を整備していきたい。

平成 29 年度 むらさめひろば・なかよしひろば

4 月	46 人	10 月	60 人
5 月	148 人	11 月	153 人
6 月	110 人	12 月	159 人
7 月	90 人	1 月	150 人
8 月	20 人	2 月	149 人
9 月	145 人	3 月	77 人
合 計			1307 人

(4) 一時保育事業

愛分園からの 2 歳児に編入する園児数の増加で、面積基準の関係上、一時保育室を 2 歳児保育室に利用したので、当年度は、各年齢の保育室で一時保育児童の保育を行った。そのため在園時の教育保育の質の低下を防ぎ、クラス担当職員の負担軽減のため、一時保育利用児童定員（5 名）を減らし取り組んだ。

利用状況は、入所できない待機児童で非定型保育（就労で保育が必要）利用者が大半だが、産前産後のうつ病や精神疾患がある緊急保育利用者も増えてきている。非定型保育利用日数では足りない日数を補うためのリフレッシュ保育利用者が増えている。また、近隣にあるインターナショナルスクール児童や幼稚園や認定こども園児の春・夏・冬休み期間中の利用が増えた事も特徴的であった。

また、一時保育を利用される母親の見守りや相談も必要不可欠になっており、子育て支援事業と併せ一時保育事業と連動強化を行っていきたい。

平成 29 年度 村雨こども園 一時保育利用状況

	非定型保育	緊急保育	リフレッシュ保育	合計（人）
4 月	50	1	5	56
5 月	54	2	8	64
6 月	70	0	12	82
7 月	58	2	6	66
8 月	66	0	7	73
9 月	57	4	5	66
10 月	60	7	5	72
11 月	63	3	7	73
12 月	67	1	10	78
1 月	45	3	5	53
2 月	59	13	5	77
3 月	61	11	7	79
合計	710	47	82	839

(5) 研修

1) 保護者対応の外部研修や園内では個別対応検討会議等を行った。
また、モンスターペアレントの事例については、第三者委員の吉野弁護士と松本民生委員、顧問弁護士の渡部先生にもお越し頂き、経過を報告し、保護者への対応策や職員の取り組み方等ご助言を頂く会議を行った。保護者対応業務を深く学ぶことが出来、また相談業務体制を見直すきっかけになった。

2) キャリアパス研修を行った。今後の保育・教育研修を受講し、仕事内容の質をどう深めキャリアを積み、役割業務にどのように対応して仕事を熟していくかの研修体系の内容研修を深めた。しかし、活用面においては見直しの必要性がある。職員一人ひとりが、キャリアパス構築に向けて目的をもって取り組んでいく道筋を明確にしていけるように、再度構築し活用しやすいものとした。

3) 幼保連携型認定こども園に移行し、「学校安全計画」「学校保健計画」の導入が必要となり、従来の安全面、災害対応、衛生面、小児保健への取り組みを見直し年間計画を新たに作成した。

また、必置である「学校薬剤師 仲 一美先生」とも契約し、プールの塩素検査や水道水の水質検査、室内の空気酸素濃度検査等を年2回実地検査して頂いた。全て良質との結果判定で問題はなかった。

3-4 村雨ほほえみ保育園（小規模保育事業）

・運営について

平成29年4月に小規模保育園として開園。0歳児3名からのスタートであったが、7月には定員に達しその後は入れ替わることなく年度を終了。保育内容・行事・給食だけでなく事務や業務全般において、村雨こども園より助言を受け連携し保育環境・職員体制を整えてきた。年度末には一時保育の受入れを開始し、継続的に利用受入れしている。

・保育内容について

新設園ということもあり保護者の不安に繋がらないよう、村雨こども園の助言・指導を受け丁寧な保育・対応に取り組んだ。また、保育検討会・行事の打合せ・反省会の他にも、日々の保育の進め方や保護者対応に関して、職員全員できめ細かな話し合いを重ね、職員間の連携強化と共通理解を進めた。

園庭のない環境ではあるが、近隣の公園や駐車場を利用し、積極的に体を動かせる環境作りに取り組み、夏季にはプール遊びも取り入れできるだけ多くの経験を積めるように努めた。

外部研修については正規職員のみ参加となったため、保育の質の向上を目的として次年度は非正規職員の研修参加も促していきたい。

平成 29 年度 村雨ほほえみ保育園（定員 19 名）園児数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合計（人）
4 月	3	6	7	16
5 月	3	6	7	16
6 月	3	6	7	16
7 月	6	6	7	19
8 月	6	6	7	19
9 月	6	6	7	19
10 月	6	6	7	19
11 月	6	6	7	19
12 月	6	6	7	19
1 月	6	6	7	19
2 月	6	6	7	19
3 月	6	6	7	19
平均	5.25	6	7	18.25

3-5 松風児童館

開館 6 年目を迎え、一般来館、各種行事に関しては口コミも含め、利用者数が増加傾向にある。また、地域の行事やこどもフェスタ、グリーンフェスタなどのイベントへの参加で多くの方に松風児童館を知ってもらい、地域の皆さんと児童館の結びつきができてきている。

学童クラブは年々ニーズが高まり、在籍数が増加している。今後も学童数の増加が予想され、神戸市担当部局と分館設置について協議を重ね、環境の充実に向けた取り組みを来年度に向けて進めている。

今後も地域の皆さんとより一層の結びつきを深め、身近で親しみのある児童館になっていくように、児童館運営に努めていきたい。

平成 29 年度 松風児童館利用状況（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

月	来館利用人員							学童	
	幼児	小学生				中高生	大人	合計	在籍数
		1～3 年		4～6 年					
		一般	学童	一般	学童				
4	43	27	1,599	9	272	1	86	2,037	113
5	198	11	1,559	4	210	0	179	2,161	110
6	235	14	1,675	12	241	0	249	2,426	109
7	124	19	1,499	15	219	0	132	2,008	109

8	4	19	1,302	34	202	2	9	1,572	105
9	223	7	1,346	17	145	0	189	1,927	98
10	225	58	1,357	24	129	3	212	2,058	96
11	231	13	1,266	12	113	3	202	1,840	92
12	175	12	1,227	12	121	0	151	1,698	87
1	173	3	989	7	94	0	158	1,424	84
2	241	18	982	11	70	0	217	1,539	79
3	109	18	1,085	20	76	0	99	1,407	78
合計	1,981	219	15,886	177	1,892	9	1,883	22,097	

1) 親子館事業内容、状況報告

毎週月曜日の、「むらさめひろば」「なかよしひろば」は地域の親子に浸透してきており、参加者が増えている。なかでも、「せんせいとあそぼ」は絵本の日や工作など多様なプログラムを取り入れ、予定をわかりやすく掲示するなど利用しやすくし、ますます好評で参加の親子が増えている。

子育て支援センター「すくすく」は、地域のニーズを考えながら、松風児童館独自の特色ある内容を検討し実施している。年齢にあったプログラムと併せて、異年齢や保護者同士の交流も持てるような場づくりにも取り組み、児童館が親子のほっとできる居場所となっている。

「むらさめひろば」、「なかよしひろば」、「すくすく」の各クラスを経験した方が村雨こども園の一時保育を利用したり、こども園入園希望の方が育児休暇中に児童館を利用されることが増え、こども園と児童館の相乗効果が出ている。

平成 29 年度 松風児童館 親子館事業報告

クラブ名	対象者	時 間	料金等	内 容
なかよしひろば	0歳児～ 就学前乳幼児親子	毎週月曜日 9:30～12:00	無料 自由参加	大型遊具で自由遊び
むらさめひろば	0歳児～ 就学前乳幼児親子	毎週月曜日 9:30～12:00	無料 自由参加	村雨こども園 園庭で自由遊び
せんせいと あそぼ	0歳児～ 就学前乳幼児親子	なかよしひろばの日 11:00～11:20	自由参加	たいそうや手遊び 絵本読み聞かせなど
おべんとう ひろば	0歳児～ 就学前乳幼児親子	なかよしひろばの日 11:30～12:00	自由参加	親子で昼食 (おべんとう持参)
ベビーメイト (0歳児サロン)	0歳児親子	毎週水曜日 10:30～11:30	月会費 2,500円 登録制 20組	親子のふれあい遊び、 ママ工作・発育測定など
ヨチヨチメイト (1歳児サロン)	1歳児親子	毎週火曜日 10:30～11:30	月会費 2,500円 登録制 20組	親子のふれあい遊び 季節の遊び・簡単工作など

すこやかクラブ	2～4歳児親子	毎週木曜日 10:30～11:30	年会費 3,000円 登録制 25組	親子のふれあい遊び、 季節の遊び・体操遊びなど
キッズクラブ	すこやかクラブに 登録している親子	10:00～12:00	無料	子どもを預かるキッズママと お出かけするママに分かれて ママのリフレッシュを応援

平成29年度 子育て支援センター「すくすく」登録組数

(平成29年5月～平成30年3月)

月	ベビーメイト (組)	ヨチヨチメイト (組)	すこやかクラブ (組)	合計 (組)
5	7	10	15	32
6	7	10	15	32
7	7	10	15	32
9	7	10	15	32
10	7	10	15	32
11	7	10	15	32
12	7	10	15	32
1	7	10	15	32
2	7	10	15	32
3	7	10	15	32
平均	7	10	15	32

平成29年度 自由来館子育て支援事業

クラブ名	活動内容	期 間	参加延べ人数
なかよしひろば	室内自由遊び	毎週月曜日	1287人
	せんせいとあそび		1147人
	むらさめひろば		388人
	おべんとうひろば		45人

2) 児童健全育成事業内容・状況について

ハロウィンパーティーや地域のお祭りへの出店などが回数を重ね、地域の方々が楽しみにして下さるものとなってきている。今年度は地域の高齢者の方との茶話会の際に地域の乳幼児親子もお招きし、小学生も一緒にゲームやお話で交流し、楽しいひと時を過ごすことができた。

また、工作などの毎月の行事はもちろん、子どもたちの安心安全のための防犯・防災指導も関係機関と連携し充実させた。

平成29年度 児童健全育成事業報告

月	事業名 (参加者数)
4	入所・進級式 (85名) カレンダーづくり (28名) プレゼント工作 (81名)

	学童誕生会 (89 名) 安全指導 (87 名) 運営説明会 (54 名)
5	チャレンジ工作(63 名) カレンダー作り(27 名) 学童誕生会(86 名) 安全指導(73 名)
6	プレゼント工作(64 名) カレンダー作り(47 名) 学童誕生会(88 名) 学童保護者会(37 家庭) 安全指導(75 名) 運営委員会 (8 名)
7	七夕工作(68 名) カレンダー作り(57 名) 学童誕生会 (70 名) 安全指導 (67 名) 学童個別懇談(18 家庭)
8	チャレンジゲーム大会(82 名) 交通安全教室(80 名) こわいおはなしの 会(64 名) さかなづくり(39 名) 学童夏のお出かけ(67 名) 学童図書館へ いこう (79 名) カレンダー作り(17 名) 学童遠足 (84) 源平夏祭り (259 名) 学童誕生会 (70 名)
9	カレンダー作り(34 名) プレゼント工作(54 名) 安全指導(64 名) 学童誕生会 (75 名)
10	カレンダー作り(36 名) ハロウィン工作(109 名) ハロウィンパーティー (182 名) 安全指導(80 名) 学童誕生会 (68 名)
11	秋の自然物工作(53 名) カレンダー作り(31 名) チャレンジゲーム大会 (18 名) 安全指導(68 名) 学童誕生会 (62 名)
12	クリスマス工作 (85 名) クリスマス会(64 名) カレンダー作り(47 名) クリーン作戦(50 名)安全指導(68 名)マフラーづくり (79 名) 学童誕生会 (58 名)
1	チャレンジゲーム大会(31 名) 震災語り部(69 名) カレンダー作り(21 名) マフラーづくり (68 名) プレゼント工作 (65 名) 学童誕生会 (55 名) 安全指導(69 名) 学童説明会 (94 名)
2	プレゼント工作 (20 名) 地域敬老交流会への参加(12 名) バレンタイン 工作(43 名) カレンダー作り(52 名) 安全指導(59 名) 世代間交流 (33 名) 学童誕生会 (56 名) 学童新入個人面談 (70 名)
3	チャレンジ工作(38 名) 学童新入個人面談(13 名) カレンダー作り(45 名) クリーン作戦(54 名) 学童遠足(46 名)安全指導(52 名) 学童誕生会(56 名)

3) 松風放課後児童クラブ (学童保育) 事業内容、状況報告

松風放課後児童クラブは4月に1年生44名、2年生2名の新入会児と67名の継続児の113名でスタートした。昨年度より25名増となり、神戸市との協議検討をし、長期休暇日は「たかとり児童館」「西須磨小学校」にご協力いただき、2か所に分けての学童保育を行った。また、こども園ホールを借り、低学年と高学年が分かれて生活することで過密の緩和を図った。

子どもたちが落ち着いて、安全に楽しく生活できるよう環境を整備し、日々の過ごし方や行事を工夫した。

平成 29 年度学校別・学年別在籍児数（4 月・10 月・3 月）

（平成 29 年 4 月 1 日）

小学校名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計 (人)
西須磨	36	30	19	8	4	2	99
若 宮	8	4	0	0	2	0	14
合計 (人)	44	34	19	8	6	2	113

（平成 29 年 10 月 1 日）

小学校名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計 (人)
西須磨	33	26	16	4	1	2	82
若 宮	8	4	0	0	2	0	14
合計 (人)	41	30	16	4	3	2	96

（平成 30 年 3 月 1 日）

小学校名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計 (人)
西須磨	30	21	15	3	0	2	71
若 宮	6	1	0	0	0	0	7
合計 (人)	36	22	15	3	0	2	78

*在籍数…年間の推移は別紙参照（平成 29 年度松風児童館利用状況）

3-5 諏訪ひかり保育園

（1）保育・運営

諏訪ひかり保育園は6年目を迎え、引き続き地域からの信頼と期待に応えるため、当保育園ならではの地域に密着した保育の実践に取り組み、園長交代をはじめ新たな体制のもと、保育の質の一層の向上と教育の充実に努めた。一例として、保育検討会等において、保育課程の見直しや行事等に関する検討や研究が継続的に行われ、常に改善され、保育の質の向上につながっている。

今年度園児は97名でスタートし、就学前教育・保育の重要性を再確認すると共に、地域の保育園・幼稚園・小学校、老人福祉施設との交流なども積極的に行い、広く地域交流を図った。

保護者対応に関しては、日々の情報交換のみならずクラス懇談会、個別懇談会、行事を通してコミュニケーションを密にとり、保護者の気持ちに寄り添い、ともに子どもの育ちに共感しあいながら、パートナーシップとして二人三脚で歩むような密接な関係を築くよう努めた。

職員間の情報共有に関しては、職員会議をはじめとする各種会議や定例打ち合わせなどを定期的を開催するほか、緊急性のある場合などは必要に応じ、連絡会・検討会などを適宜開催し、子どもや保護者の情報、危機管理情報などの共有や、連絡・指示命令の即時伝達など、可能な限りダイレクトでタイムリーな情報周知の徹底を図った。

園内における職員間の連携については、以前から継続して取り組んでいる課題である。これには情報共有と相互理解が不可欠であり、これらを推進するために、情報発信や情報交換がスムーズに行えるような仕組みと風土づくりが必要であり、課題として現在その整備に取り組んでいる。

また、「さいたま保育園」との施設間連携において、保育・教育連携として幼児クラスの交流を行い、職員連携として研修の合同実施や新入保育士の保育研修の受け入れ等を通して人的交流を図るなど、一步ずつ確実に進み始めている。今後、相互の保育・教育効果を深めるためには、幼児や職員の交流を活発化させていくことが必要で、運動会や遠足など行事の合同開催や、プレイルームをはじめとする保育施設の相互利用など、日常の中で恒常的に交流が図れるよう努めたい。

行事については、運動会を9月下旬、第四小学校にて行った。他にはつぴょう会、遠足、おとまり保育、月ごとの誕生会、など季節の行事を中心に行った。内容の充実に努めた結果、行事を通して子どもたちは大きく成長し、保護者の方にはその姿を感じていただいた。

東京都23区を中心に和光市や近隣行政の諸施策などに関してもアンテナを高くして対応していき、保育園の新たな設置など将来に向けての発展的展開などを試みていく。

保育の充実、保育の質の向上、新たな事業展開を図るなど、いずれにしても重要ポイントは、職員の確保と定着、人材育成、職員のスキルアップなどのいわゆる「人」の問題である。働き方改革が叫ばれている現在、1～5年先を見据えて人事体系を構築していくこととしたい。

平成29年度 諏訪ひかり保育園園児数

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	12	15	18	17	17	18	97
5月	12	15	18	18	17	17	97
6月	12	15	17	18	17	17	96
7月	12	15	18	18	18	17	98
8月	12	15	18	18	17	17	97
9月	12	15	18	18	17	17	97
10月	12	15	18	18	17	17	97
11月	12	15	18	18	17	17	97
12月	12	15	18	18	17	18	98
1月	12	15	18	18	17	18	98
2月	12	15	18	18	17	18	98
3月	12	15	18	18	17	18	98
平均	12	15	17.9	17.9	17.1	17.4	97.3

(2) 病児・病後児保育室「やわら」

病児・病後児保育も周知が進み、昨年度同様目標の200名には及ばなかったが、利用数は100台後半を安定して確保している。インフルエンザの大流行により、1、2月には、連日定員を超える申し込みがあった。保護者や職場の要請に応えるための病児保育の受入れ態勢の見直し、保育看護体制を整え、より多くの受入れに対応できるようにしていきたいと考えている。

平成29年度 病児・病後児保育室「やわら」利用人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
人数	7	13	15	16	24	18
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	14	13	12	21	14	10
合計	177人					

(3) 一時預かり保育

一時預かり保育に関しては周知が進み、588名の利用があった。利用に際しての対応や受入れ態勢などに関しては課題があるため、地域の方々を優先するなど改善に努めたい。

平成29年度 諏訪ひかり保育園 一時保育利用状況

	非定型保育	緊急保育	リフレッシュ保育	合計(人)
4月	23	0	4	27
5月	25	9	2	36
6月	37	1	4	42
7月	46	4	1	51
8月	41	0	0	41
9月	41	2	15	58
10月	56	5	11	72
11月	46	1	3	50
12月	59	2	6	67
1月	39	0	3	42
2月	32	1	5	38
3月	63	0	1	64
合計	508	25	55	588

(4) 職員研修

人材育成に関しては、発達支援や保育の技術アップ、幼児教育研修などの専

門分野系研修と、リーダー研修やコーチング研修などのマネジメント系研修を計画実施した。またコミュニケーション研修として、全職員に対しディズニー研修を実施した。法人下で初めての試みであったが、日々の保育の大きな参考となった。

また、専門性を磨くために、外部研修にも積極的に参加し、それぞれの課題を捉え、研修に努めた。

4 公益事業

4-1 放課後児童クラブキッズガーデン

児童数増加傾向にある中、平成29年度4月、毎日コース42名、個性育成コース9名、一時保育登録者27名でのスタートとなった。家庭的な雰囲気の中で、教育方針「遊んで学ぶ子どもの広場」をモットーに活動している。日々、保育室・園庭・体育館を利用し、十分な室内遊びや運動量の確保に努めている。さらに、季節に合わせた行事計画を月1回実施している。

平成29年秋から、同施設内のスマイリーハウス保育園整備に伴い、生活の拠点を1Fから2Fに移し、同時に環境整備を行う。また、児童増加対策としてバスを購入し、くまバスと2台で送迎や園外活動の充実を図る。

平成30年度からは、本園の特色である『個性育成コース』の向上を図る為、「English day」やプログラミング講座を導入予定とし、より一層の充実を図ることとしたい。

平成29年度 キッズガーデン在籍、利用者数 (人)

	毎日コース	個性育成コース	一日預かり・一時利用
4月	42	9	0
5月	42	9	0
6月	41	9	1
7月	41	10	2
夏休み	61	7	9
9月	41	11	1
10月	41	11	2
11月	40	10	0
12月	40	10	2
冬休み	51	—	—
1月	40	10	1
2月	40	10	1
3月	39	10	10
平均	43	9.7	2.4

平成 29 年度行事報告

4月	はじめまして会
5月	園外保育「但馬ドーム」
6月	園外保育「魚っ知館」
7月	夏休み版はじめまして会、円山川プール、ヒメハナ公園
8月	シュノーケリング体験、お泊り会(とちのき村)、クワハウス岩滝、カヌー・カヤック体験、丹後王国
9月	園外保育「甲山公園」
10月	りんご狩り体験
11月	園外保育「福知山児童科学館・動物園」
12月	クリスマス会
1月	円山川公苑スケート体験、サッカー巡回指導
2月	アップ神鍋スキー遠足
3月	お別れ遠足「京都太秦映画村」

4-2 さいたま保育園

平成 28 年 4 月より引き継いださいたま保育園は、2 年目を迎え安定した運営を行ってきている。新しい取り組みなども行い、9 月に第四小学校で行った親子レクリエーションでは、保護者からの評価も高く、今後に向けてより一層の行事の充実に努めていく。

2 月には 100 名受け入れ可能な新園舎が完成し、3 月 3 日に新園舎への引っ越しも完了している。職員、園児、保護者共に引っ越しに伴う環境変化もあったが大きな問題もなく移行が出来ている。

今後園児の定員変更などが行われることからも諏訪ひかり保育園との連携体制を整え、園内外の研修を通して職員の質の向上が一層求められる。

平成 29 年度 さいたま保育園園児数

月	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計(人)
4 月	1	8	8	1	0	0	18
5 月	1	8	7	1	0	0	17
6 月	2	9	7	1	1	0	20
7 月	2	9	4	1	1	0	17
8 月	3	9	4	2	1	0	19
9 月	3	9	4	2	1	0	19
10 月	5	9	4	3	1	0	22
11 月	6	9	3	3	1	0	22

12月	6	9	3	2	1	0	22
1月	6	9	3	2	1	0	22
2月	7	10	3	3	1	0	24
3月	7	10	3	3	1	0	24
平均	4	9	4	2	0.8	0	19.6

4-3 こじか保育園

独立行政法人国立病院機構下志津病院の院内保育園である「こじか保育園」の運営を平成29年4月より引き継いだ。前運営会社の撤退に伴うもので、病院からのアプローチもあり、公募採択に至ったものである。

運営に際しては、施設長を含む前運営会社スタッフ全員が残り、園児の保育に関しては大きな問題もなく、円滑な移行が出来た。また、平成29年4月より企業主導型保育事業を開始し、地域枠の園児の入園も可能となった。同年4月から自園給食も始まり、園児だけでなく保護者にも好評を得ている。

平成29年度は園舎増築に伴い、職員間のコミュニケーション不足が目立ってしまった為、園内研修を充実させ、意思統一を図りながら保育の質を高めていきたい。

平成29年度 こじか保育園園児数

月	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計(人)
4月	4	6	8	5	3	2	28
5月	4	6	8	5	3	2	28
6月	5	7	8	5	3	2	30
7月	5	7	8	5	3	2	30
8月	7	7	9	5	3	2	33
9月	7	7	9	5	3	2	33
10月	10	8	10	5	3	2	38
11月	10	8	10	5	3	2	38
12月	10	8	10	5	3	2	38
1月	10	8	10	5	3	2	38
2月	10	7	10	5	3	2	37
3月	11	7	10	5	3	2	38
平均	7.75	7.16	9.16	5	3	2	34

5 法人としての主な報告と今後の課題

5-1 法人・園運営改善について

- ① 理事会を10回開催し、さまざまな課題に関して協議を行うと共に、円滑な経営、運営に努めている。

- ② 評議員会を2回開催し、さまざまな諮問に対して審議し、円滑な経営、運営に努めている。
- ③ 理事会、評議員会に関しての役割について明確化し、取り組んでいる。
- ④ 法人本部機能を強化し、法人と施設の円滑な連携について、推進及び改善に努めている。
- ⑤ 保育園の定員超過に対して、各地域の状況、調査・検討を加え、新設園、分園を設置するなど具体的な取り組みを行った。
- ⑥ コンプライアンス委員会を設置し、法人内の取り組みの確認を行うと共に、各施設で研修会を行った。
- ⑦ 幼保連携型認定こども園に対する取組み、保育指針の改定に伴い、保育課程を作成し、年、月の指導計画を継続して検討し、改善を加えながら、変更を図った。
- ⑧ 経理規程を見直した。
- ⑨ 会計システムの円滑な処理、整備を行なっている。
- ⑩ 社会保険労務士など専門家と協議し、各施設に合致した就業規則、給与規定など職員の処遇などを制定し、実行すると共に、人事考課など人事システムに関しての検討を行った。
- ⑪ キャリアパスに合致した体制作り、諸規定整備に向けた検討を行い、具体案の提示に努めた。平成30年度には成案したい。
- ⑫ 職員資質向上のための研修や実践を行った。
- ⑬ 苦情解決システムの一層の円滑化と活用を行う。
- ⑭ 外部監査の導入を行っており、随時経営改善に努める。
- ⑮ 第三者評価を受審する準備を含め、各種のマニュアルを整備し、実践に努めている。
- ⑯ 子どもの育ちを客観的に把握するためのシステム、体制整備に努めている。
- ⑰ 平成29年4月に開始された社会福祉法人改革に伴う諸準備を進め、行政や社会福祉協議会、各種専門セミナーに積極的に参加すると共に、専門家の助言を受けながら、諸手続きを行った。

5-2 日常業務関係

(1) 防災・危機管理体制の充実について

- ① 防災マニュアルを整備し、訓練に生かすと共に常に見直し、改善に努めている。
- ② 様々なケース(内容、時間、場所)を想定しての避難訓練の充実を行う。
- ③ 危機管理体制の一層の整備を行う。
- ④ メールの一斉配信など、個人情報保護を鑑みつつ、緊急時の保護者との連絡体制の整備を行い、円滑な連携システムが整い、円滑な活用となっている。

(2) 園務・経理の効率化

- ① ネットワークシステムを構築し、情報共有や情報保護に取り組み、平成 29 年に本格稼働に向けた取り組みを行う予定である。
- ② 経理事務に関しては、法人としての一括処理を前提に、システム構築を検討し、随時導入している。
- ③ LAN システムを活用すると共に、パソコン等を拡充し、業務効率化を推進し、一層の充実を図っている。
- ④ 保護者、職員等とのメール配信、連絡など活用方法をなお一層工夫し、相談業務等への充実、活用を図る。
- ⑤ 個人情報保護を念頭に、データ管理の整備を行い、ペーパーレス化を一層推進している。(2) ①と連携し、充実を図るものとする。
- ⑥ 経理システム、給与計算、栄養計算など関係するソフトを継続して更新し、一層の業務効率化を進める。
- ⑦ 月案・週案など日常業務について、コンピュータ処理化を図り、円滑な運用を行なっている。
- ⑧ ホームページをリニューアルすると共に、職員研修を行って、職員でも対応できるような体制整備を進めている。

(3) 各種研修の実施

- ① 全職員を対象に各拠点で、コンプライアンスに関する研修を行った。
- ② 保育内容充実に関する研修について、積極的に参加した。
- ③ 情報共有に関する勉強、取組みを積極的に行った。
- ④ 法人として、メンタルヘルスケア研修を継続して行った。
- ⑤ 保・幼・小連携など、地域の研修に積極的に参加した。
- ⑥ 運動遊びなどの体育の研修に積極的に参加した。
- ⑦ 他の保育園、幼稚園、児童館等の施設見学、教育内容、保育内容の研修に努めた。
- ⑧ 保育関係団体主催の研究大会、セミナー等へ積極的に参加し、フィードバックに努めた。
- ⑨ 保育制度改革に伴う、各種セミナー、勉強会に積極的に参加した。
- ⑩ 社会人としての常識、マナーなど社会性を身につける研修を積極的に取り入れた。
- ⑪ パソコン活用を推進し、IT 研修を積極的に行い、レベルの均一化と共に高度化、専門化に向けた研修を行なっている(ホームページ、メール、インターネットの活用、業務効率化)。
- ⑫ 園児に関する基本データを活用し、保育の実践に役立てている(保育支援システムの導入と活用)。
- ⑬ 第三者評価を受審するための勉強会、フィードバック研修などに積極的に参加し、整備に努めている。
- ⑭ 社会福祉法人改革に伴う、各種の勉強会、研修に参加し、具体的対応を行

った。

(4) ホームページ・各種連絡について

- ① ホームページ等の定時更新を行うための体制整備を行っている。
- ② 園だより、給食だより、クラスだよりなど、定期的なお便りの充実を行い、配布を行っている。
- ③ 園行事等に関して、受付場所にPC・テレビを配置し、情報配信し、高い評価を受けている（諏訪ひかり保育園）。
- ④ メール通信を活用し、行事予定のお知らせ、欠席者の報告や伝言について、迅速かつ正確に行なっている。
- ⑤ 個人情報保護や育児相談の観点から、なお一層メールを活用した連絡網を確立し、子育て支援に役立てている。
- ⑥ 法人と施設の連絡において、連携ミス等があり、今後改善に努めたい。
- ⑦ メールアドレス・パスワードなどセキュリティの充実、システム開発に取り組んでいる。

(5) 受付業務

- ① 電話応対について、個人名呼名が定着し、高い評価を受けている。
- ② コミュニケーション能力を向上させ、臨機応変、即時の対応については、今後一層研修に努め、情報共有化などを推進している。
- ③ メールの活用など、受付業務、連絡業務の改善を行っている。

(6) 食育の推進（各施設共通の課題として）

- ① 一汁三菜などメニューの抜本的な見直しを行い、改善に努めている。
- ② チャイルド農園での野菜の栽培などを活用した実践的な食育活動の展開を行い、一定の成果をあげている。村雨保育園でも同様に、屋上園庭において、菜園を行い、食育の一助になっている。
- ③ 栄養士を中心に保育士と連携し、年間食育計画を作成し、食育についての研究、研修活動を積極的に行った。
- ④ 園児の個別のアレルギーの聞き取りを行うなど、離乳食、アレルギー除去食、病児食など献立、食材など一層の工夫を加え、更なる充実を図っている。
- ⑤ 「お料理室たより」などを通じて、食育指導、栄養指導、健康面での啓発活動に取り組んでいる。
- ⑥ 食指導において、家庭との連携が課題となり、保護者指導などを行う必要がある。
- ⑦ 毎日、献立サンプルの展示を行っている。
- ⑧ 健康増進について啓発活動を行い、実践する。

6 新規事業

(1) 平成 30 年 4 月開園

- ① スマイリーハウス保育園（開園）
- ② つくしんぼ保育所（国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院院内保育所運営受託）
- ③ 松風児童館分館

(2) 平成 30 年度重点事業

諸課題等に関して、優先順位を決めて、早急に検討、対応する。

- ① 認定こども園への対応（チャイルドハウス、諏訪ひかり保育園）
- ② こじか保育園・さいたま保育園定員増及び認可園への対応
- ③ つくしんぼ保育所定員増及び新園舎への対応
- ④ 東京都における認可保育園開園に向けた調査及び具体的取組
- ⑤ 放課後児童クラブ・複合型施設及び児童館への取組み（豊岡）
- ⑥ 泉町所有地の有効活用（豊岡）
- ⑦ 就労支援・就労移行支援事業への取組み（豊岡）
- ⑧ 多地域多機能多施設への取組み
- ⑨ その他、アンテナを高くして対応

まとめにかえて

平成 11 年 4 月にチャイルドハウス保育園を開設以来、20 年が経過し、社会福祉法人改革とも相まって、法人としての在り様が見直されており、法人としての今後の方向性等に関して、一層の検討、方針の確立が急がれる。

サンタ（多地域・多機能・多施設）を充実させ、それぞれの地域に必要不可欠な存在となりうるように取り組みを進めていくこととしたい。

本法人として、現下の状況で、何をどのように実践していくのか、選択と集中を進め、実践的な準備を進めていくこととしたい。

いずれにしても、教育・保育の質を担保しながら、より広い視野での福祉・教育の実践を視野に、なくてはならない存在として、法人・施設の機能、役割を見直しながら、新陳代謝を進める取組みを行うこととしたい。

法人と施設の円滑な連携、PDCA を大切に、役職員すべての叡智と行動によって、一步一步着実に歩むこととしたい。